

三田図書館・情報学会運営委員会議事抄録

日時：2018年6月6日（水）18:10～20:30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館会議室2

出席者：安形麻理，池谷のぞみ，上田修一，岸田和明，倉田敬子，谷口祥一
田村俊作，根本彰，細野公男，松本直樹（五十音順）

監事：長谷川豊祐

オブザーバー：木村麻衣子

【2017年度事業報告】

1. 編集委員会

学会誌（No.77, No.78）の編集と刊行，学会賞の選考，編集委員会の開催，2017年度編集状況，EBSCOとの契約について，資料1，2に基づき，岸田編集委員長から報告がなされた。

[質疑応答]

・EBSCOとの契約はどのような内容か。また現在どのような状況か。

→著作権は学会が持つが，DOIは付与されない。1年間のエンバーゴののち全文が公開される。年間ロイヤリティとして10から30万円程度の収入が見込まれている。但し金額はEBSCOの基準に基づくためあくまで予定である。現在，どのように全文ファイルを提供するかについて問い合わせしている。

・EBSCOと契約している大学図書館では学会と契約せずに関覧することができるのか。

→可能になる。

・今後，オープンアクセス化を検討しないのか。

→完全オープンアクセスではロイヤリティの収入がなくなるので，まずはエンバーゴの期間を1年間に設定して開始したい。

2. プログラム委員会

2017年度月例会，研究大会（「ラウンドテーブル」含む），ベストプレゼンテーション賞，プログラム委員会開催について，資料3，4，5-1，5-2に基づき，谷口プログラム委員長から報告がなされた。

3. 研究助成

2017年度の研究助成について，資料6に基づき，岸田学会事務局から報告がなされた。2015年度助成の2件のうち，1件は2017年度中に投稿があったが，もう1件は未投稿であり，連絡がついていない。

4. 将来構想ワーキンググループ

諮問事項，答申，現状分析と検討の詳細について，資料7に基づき，倉田会長から報告があった。

[質疑応答]

・電子ジャーナル化，オープンアクセス化の方向性には賛成だが，消極的な観点からではなく積極的な観点から進めてほしい。

→そうしたい。

・付録1の「収入構造と予測」を見ると2016年度の繰越額が増えているように見えるがなぜか。

→特別会計を一般会計に繰り入れたためであり，学会の財政状況は大きく変化していない。

・同資料を見ると機関会員が増えているように見えるがなぜか。

→会計士の指摘があり，学会誌を購入していた書店等に機関会員になってもらった。

・印刷版を廃止した全面電子化では機関会員の減少が予想されるのではないか。

→「KBダイレクト」が機関のIPアドレス登録による閲覧ができないかを交渉する。それが可

能になれば残る可能性はある。また会員である機関に所属する研究者に投稿を認めるなどの優遇策を検討して、できるだけ減少を少なくしたい。

・ ORCID, DOI の付与は可能か。

→ ORCID は投稿者に義務づける。DOI は KB ダイレクトで付与できる。

・ 機関会員以外に卒業生などの個人会員が減少する可能性があるのではないか。

→ そうした会員自体がすでに減少している。どの程度の割合かは全く予測できないため、その懸念だけで全面電子化を止める理由にはならないと考えている。

・ APC を徴収する可能性はあるか。

→ 現在は考えていない。個人会員が大幅に減少した場合、検討する必要がある。

以上、2017 年度事業報告が承認された。

5. 2017 年度決算報告

決算に関する報告が資料 8 に基づき岸田学会事務局からなされた。長谷川監事から決算に関して適正になされていることが報告された。

[質疑応答]

・ 次年度繰越金が減少している。これは近年の傾向か。

→ そのとおり。学会誌のページ数の増減による印刷代の変化が財務状況を左右する構造にある。多数の論文掲載は望ましいことであり、こうした状況に耐えられる体制構築が必要と考えている。

・ 塾補助金は今後も継続されるのか。

→ 予備費が多額の場合、補助されない可能性が出てきた。しかし、当学会に関してそうした心配はない。さらに文学部内の他学会と同額となるように増額を要望する予定である。

以上、2017 年度決算報告が承認された。

【2018 年度事業計画】

1. 編集委員会

資料 9, 10 に基づき岸田氏（編集委員長）から説明がなされた。No.79 を 2018 年 6 月末に 6 本掲載で刊行、No.80 を 12 月に 3 本程度で刊行予定である。2018 年度の学会賞の選考を No.78, No.79（刊行予定）掲載の原著論文 11 編を対象に編集委員会で行う。

[質疑応答]

・ 投稿から受理までに時間がかかっている印象がある。

→ 審査にかかる時間のデータはない。編集委員会の担当者によって一連の作業が遅れることがある。気をつけたい。

・ 査読者の選定にも時間がかかっているのか。

→ 時間がかかることがある。理由は、査読者に断られるケースや同一査読者には 1 年経過しないと依頼しないルール等が関係している。

→ 査読後 1 年経過しないと依頼しないルールはやめてもいいのではないか。

・ 査読が業績になるよう一定の情報公開をしてはどうか。また、リタイヤした研究者は時間が余っていることも考えられる。

・ 学術誌によって査読者に求める役割・範囲は異なる。Library and Information Science 誌で求める役割が伝わっていない可能性がある。査読者に伝わるようにしてほしい。

・ 筑波大学の大学院生の投稿が多い。理由はなぜか。

→ 日本図書館情報学会誌と比較してページ数の制限が緩かったことが考えられる。

・ ページ数の制限を厳しくした効果は現れているか。

→ No.79 の一部から新投稿規程が適用されている。今後、現れてくると考えている。

・ 掲載できないデータの公開を推奨してはどうか。

→ データを別途公開してもらい、論文に URL を記載してもらうことを推奨することが考えられる。Zenodo, Figshare 等、研究者向けのデータ公開サービスも普及している。検討していきたい。

2. プログラム委員会

資料 11 に基づき谷口プログラム委員長から説明がなされた。研究大会は 10 月 13 日（土）に三田キャンパス東館 G Lab で開催する（文学部及び文学研究科・社会学研究科との共催）。昨年と同様の方式でベストプレゼンテーション賞の選考を行う。また、ラウンドテーブルを開催する方向で検討している。月例会は、175～178 回まで 4 回開催する。

【質疑応答】

- ・ラウンドテーブルの記録は公開しているのか。
- 公式的なものは資料 5-2 である。もう少し詳しいものとして大学院博士課程の橋詰君が個人的にカレントアウェアネス-E に報告したものがある。
- ・記録をとり公表するべきではないか。
- 今年度はその方向で検討する。
- ・ラウンドテーブルの位置づけを決める必要がある。
- 昨年度の実績を踏まえて今年度も実施する。位置づけは今後検討したい。
- ・ラウンドテーブルを今後も継続するのか。
- 今年度は実施する方向で検討している。来年度は未定である。
- ・2 案のうちどちらでやるのか。
- プログラム委員会で案を検討し専攻会議でさらに詳細を詰めたい。場合によっては運営委員の方々にご相談するかもしれない。

3. 研究助成

研究助成に関する過去の実績について、岸田学会事務局より資料 12 に基づき説明がなされ、今年度も募集することが提案された。未投稿が 2 件継続していることもあり、審査書類、プロセスを見直すことも提案された。

【質疑応答】

- ・投稿しない場合、助成金の返還を求めるのか。
- 規程上、返還を求めることができるが、すでに院生は修了して学会から離れていることもあり実際上は難しい。
- ・指導教授は責任を感じてほしい。何らかのペナルティを課すことは考えられないか。
- 指導学生の一定期間の応募停止などが考えられるが、学生は無関係であり実際には難しい。

以上、2018 年度事業計画が承認された。

【2018 年度予算案】

2018 年度予算案について、資料 13 に基づき、岸田学会事務局から説明がなされた。なお、収入の部の前年度繰越金の金額を資料 8 にある 3,966,545 円に修正してほしい。

【質疑応答】

- ・2017 年度の予算・決算と比較できるよう数値を並べてほしい。
 - 検討する。
- 以上、2018 年度予算案が承認された。

【三田図書館・情報学会の活動の今後の方向性】

資料 14 に基づき、学会誌の刊行、編集委員会の体制、研究大会及び月例会について倉田会長から説明がなされた。あわせて電子化後に予想される予算案の説明があった。

【質疑応答】

- ・いつから印刷版をやめるのか。
 - 2020 年度を予定している。
 - ・改革を行う背景としての学会の状況について情報公開が必要だ。
 - 将来構想ワーキンググループの報告、運営委員会の報告、決算書などのウェブ公開を検討する。
 - ・投稿・査読システムはいつ頃導入する予定か。
 - 編集委員会からは投稿論文数を踏まえると実施の優先度は高くないとの報告があった。まずはデジタル化を優先する。
- 以上、三田図書館・情報学会の活動の今後の方向性が承認された。

【委員の交代】

委員の交代について、資料 15 に基づき、岸田学会事務局から説明がなされた。

- ・運営委員退任 酒井由紀子氏
- ・編集委員退任 酒井由紀子氏
- ・プログラム委員退任 石原眞理氏，立石亜紀子氏，原田隆史氏
- ・プログラム委員新任 木村麻衣子氏，宮田洋輔氏

【学会員の異動】

学会会員の異動と会費滞納会員への対応について、資料 16 に基づき、岸田学会事務局から説明がなされた。

(記録担当：松本)